

尾張西支部

大地震に備えた企業防災・BCP 研修会 ～想定外を想定内に～

- 日 時：令和6年3月28日（木）午後2時
- 視察先：名古屋大学 減災連携研究センター 減災館
（名古屋市千種区不老町）
- 参加者：21名

尾張西支部（富田昭夫支部長）は、東南海大地震に備えるべく会員各社の企業防災について、事業継続計画の策定に向けて研修会を開催致しました。



司会・進行の平沼委員

研修会は平沼伸基委員の開会の辞で始まり「本日は企業防災とBCPをテーマに、名古屋大学減災館を講習会場として活用させていただきました。研修会では『能登半島地震から学ぶ 企業防災・BCP』と題して、名古屋大学 平山修久准教授を講師としてご登壇いただきます。実は平山准教授とは（一社）災害復興協力チームという団体のアドバイザーをされている関係から、今回の研修会の講師をお願い致しました。」と説明がありました。



挨拶をする富田支部長

開会の挨拶で富田支部長は「本日は年度末のご多用の中、支部研修会にご参加いただきありがとうございます。昨年より、災害廃棄物仮置場設置・運営訓練を北名古屋市さんと計画をしておりましたが、本年1月1日に発災致しました『令和6年能登半島地震』の影響で、愛知県下において各自治体への救援要請の準備が通達され3月9日の北名古屋市さんとの訓練をやむなく延期せざるを得なくなりました。1月の能登半島沖の震度7を皮切りに、2月の北海道浦河沖、愛媛県南予、3月の宮崎県北部平野部、青森県東方沖、そして千葉県と今年に入ってからだけでも全国で地震が多発しています。

我々におきましても東海地震、東南海・南海地震

が予想され、対岸の火事ではなくなってきています。

そして報道等を通して聞かれる現地の声の多くは『一日も早い元の生活』です。

今一度、皆様で大地震に備えた企業防災、事業継続計画の策定に向けた学びを本日習得していただければと願っております。簡単ではございますが開会の挨拶とさせていただきます。」と述べました。

研修会

演題：能登半島地震から学ぶ 企業防災・BCP

講師：名古屋大学 平山修久准教授



講師の平山先生

始めに「令和6年能登半島地震」の概要について説明がありました。地震にはP波（primary 速いスピードで伝わる波）とS波（secondary 伝わるスピードは遅いが揺れは強い波）があり、震源から遠くなるほど、P波とS波の伝わる時間の差が大きくなります。平山先生の見解では、南海トラフ大地震は震源が海なのでP波とS波の時間差があるため、緊急地震速報で逃げる時間があるのではないか、とのこと。災害廃棄物については石川県及び各市町別に解説され、災害廃棄物対応の困難さでは、奥能登地方の特徴として、地域力を超える災害廃棄物量であると共に、廃棄物処理施設の被災等もあることが挙げられました。

そのため、仮置場の確保、出口の確保（広域処



研修会の様子

理、再生利用の確保等、輸送路の確保（道路+舟運）、リソースの確保（広域連携、資金）について説明がありました。

また、平山先生によるとBCPの第一歩は、食料と水の備蓄であるとのことから（浄水場・配水池・導送水管路が初めて壊滅的に被災をしたため）、水道関連における課題について触れました。

要点は重要な施設・管路の耐震化、ライン（線）の耐震化、災害時の水運用（消防と応用給水）、レベル2地震動に対する設計思想、圧倒的なリソース不足、人口減少社会での小規模分散地域自立型水道等についてを挙げ、専門的な観点での見解が述べられました。併せて国内の水道施設における水害リスクでは、石川県内は土砂災害警戒区域内の浄水場はゼロとのことでした。

講義の中で平山先生から参加者の皆様に、水の備蓄をしているかどうか質問があり、多くの方が上がりました。

他にも現在平山先生の研究室では、被災事業体からの情報発信に基づき復旧状況マップを作成しており、国や支援事業体に情報発信をされています。

BCPについては江戸時代の感染症における幕府のBCPを例に挙げ、事業継続のために目標を定めて、ミッションを明確にして最低限の業務とは何か？やらないことを決めることが重要との説明がありました。

最後に中小企業のBCPは、自分と家族の命を守る（家具等の固定）、社員の命を守る（家具等の固定）、自宅の耐震化、社屋の耐震対策、社員のロジスティクス（トイレ、水、食料、電源）、取引先との情報共有、の重要性を話され講演を終えました。



プロジェクションマッピングを使って津波到達予想地域を平山先生が説明



平山先生と記念撮影

質疑応答では、雨水を溜めているが飲料になるのか、または生活用水として利用するのか、について質問がありました。

平山先生は、飲料とする場合は浄化装置が必要であり、雨水は定期的に交換すると良いとのことでした。

研修後は、施設内にある名古屋市の地図上に参加者の会社をポイントをしていただき、次に地震発災時の津波到達予想地域をプロジェクションマッピングで地図に表示させ、津波被害を受けるかどうかシミュレーションを行いました。

平山先生から名古屋市以外の近隣の市町においても相談がありましたら、お越しくささいとの言葉をいただき、地図を活用した研修を終えました。

研修後も参加者の方々から平山先生に多くの質問が寄せられ、企業防災・BCPへの関心の高さが伺われ実り多き研修会でした。

今回の研修で防災に関して多方面からの視点でご講義いただき、水のインフラが重要であること、BCPの策定に向けてのハードルを下げてくださいるようなご提案をレクチャーいただき、平山先生に感謝申し上げます。



プロジェクションマッピングを使って津波到達予想地域を平山先生が説明